

当案内及び過去に発行した案内は弊社ウェブサイト(<http://www.medience.co.jp/>)よりPDF形式にてダウンロードできます。

新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えするため、検査の新規拡大に努めておりますが、この度、下記項目の検査受託を開始することとなりました。

取り急ぎご案内致しますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

記

新規受託項目

- [25954] 抗Jo-1抗体《CLEIA》

受託開始日

- 平成26年1月4日(土)

抗Jo-1抗体

抗Jo-1 (ヒスチジルtRNA合成酵素) 抗体は、多発性筋炎 (polymyositis; PM) や皮膚筋炎 (dermatomyositis; DM) の患者血清中に認められる特異的自己抗体として1980年に発見され、患者のイニシャルから抗Jo-1抗体と命名されました。対応抗原は、ヒスチジルtRNA合成酵素であり、tRNAの塩基配列に対応し、特異的にヒスチジンをtRNAに結合させる働きを持っています。

通常、これらの自己免疫性筋炎の診断には、筋電図や筋生検が用いられ、生化学検査としてCK (CPK) やAST (GOT) などの血清筋原性酵素検査が行われてきました。

抗Jo-1抗体は筋ジストロフィーや重症性筋無力症などの他の筋疾患では検出されず、全身性エリテマトーデス (SLE) や強皮症 (SSc) などの膠原病でも陽性を示さないとされています。

また、PM/DMで特にヘリオトロープ疹やGottron徴候などのDMに典型的な皮疹のない成人の典型的多発性筋炎の診断に有用で、筋炎の活動性との関連は明確ではありませんが、治療などにより軽快する場合には抗体価が低下するケースが多いといわれているため、筋炎の活動性の指標にも役立つと考えられます。

従来、抗Jo-1抗体は二重免疫拡散法 (DID法) やEIA法により検査されてきましたが、本検査は新たに開発された化学発光・酵素免疫測定法 (CLEIA) 試薬によるもので、DID法と異なり、精製抗原を用いるため、特異性の向上を図ることが可能になりました。

検査要項

項目コード	25954
検査項目名	抗Jo-1抗体《CLEIA》
検体量/保存方法	血清 0.3mL / 冷蔵
検査方法	CLEIA
基準値	10.0U/mL 未満
所要日数	2~4日
検査実施料	150点 ([D014] 自己抗体検査 [9] 抗Jo-1抗体定量)
判断料	144点 (免疫学的検査判断料)

参考文献

松下雅和, 他: 医学と薬学, 70(1), 109~117, 2013.